

学校間交流（長浜高校 & 飯野川校）

平成24年11月27日（火）15：00～16：00



次 第 15：00～15：30

- ・生徒会長歓迎のあいさつ 長浜高校生徒会長
- ・飯野川校生代表あいさつ 梶原康佑
- ・飯野川校からの発表 鈴木義武
「想定外から想定へ」
- ・被災体験発表 岡崎朝美

- 15：30～16：00
- ・学校水族館見学

修学旅行参加生徒19名のうち3名が全壊、2名が大規模半壊、2名が半壊の罹災状況であった。保護者の勤務先の被災等により経済的に困難になった生徒を加えれば、ほぼクラス全員が震災の被害者であった。3学年時に修学旅行を計画していたが、1年後に経済等の面で好転することは期待できず、修学旅行の中止も考えなくてはならない状況であった。しかし、現3学年は2学年時に愛媛県の平成24年度被災地学校修学旅行実施補助事業の支援により修学旅行が実現することができた。この支援による修学旅行は愛媛県内の観光だけではなく、旅行行程をより充実させる学校間交流の機会を愛媛県観光物産課の紹介により設けることができた。

修学旅行の思い出

宮城県石巻北高等学校飯野川校

3年 鈴木 義武

百年に一度と言われている3・11東日本大震災は私達の生活すべてを破壊してしまいました。建物を、友人を、家族を、さらに思い出までも流し去って行きました。私達のクラス19名のうち3名が全壊、2名が大規模半壊、2名が半壊の罹災状況でした。もちろん、他の仲間が難を逃れた訳ではありません。

このような状況でしたので、当然、修学旅行が実施されるとは思っていませんでした。そんな矢先、「えひめ愛顔の助け合い基金」による「被災地学校修学旅行支援事業」の話が飛び込んで来ました。最初は半信半疑でした。でも、その事が現実のものだと理解できてからは、胸躍らせながらクラス全員で旅行の計画、役割分担などを作成して出発に備えました。

愛媛県の印象は、一言で言えば、歴史のある佇まいがあるという感じでした。特に夏目漱石「坊ちゃん」で有名な道後温泉の周辺を散歩しましたが、とても趣きのある所だと思いました。その他、みかん狩りなども思い出として残っています。案内して下さる方々がとても親切で、暖かく県民性を感じることができました。

そして、この旅行で最も楽しみにしていた学校間交流会、県立長浜高校の皆さんとの出会い。バスで学校へ到着するやいなや、多くの先生方、生徒さんが出迎えてくれました。

体育館での交流会、私達は震災の状況を説明を加えながらスライドで紹介しました。一枚一枚スクリーンに映し出される惨状に、会場には独特の雰囲気漂いました。次に岡崎朝美さんによる「被災地体験スピーチ」が語られました。スライドの映像と重複したのか目頭を押さえる方もいたように見えました。

その後、長浜高校の係りの方々が全国でも珍しい校舎内の水族館を案内してくれました。中にはとても珍しい魚、ヘビ、カメの類まで見学させて頂きました。生き物を管理などで毎日大変だろうと思いました。

私は現在、生徒会長の大役を仰せつかっています。もともと消極的な性格ででしたが、県立長浜高校との交流会で進行役を勤めて以来、自分自身でもいくらか自信らしきものが芽生えてきたような気がします。他県で、しかも多くの聴衆の皆さんの前でナレーションすることなど、これまで全く経験したことはありませんでした。その意味でも交流会は私自身にとっても大きな財産となりました。

いつの日か、友人か家族などと一緒に、是非、愛媛県の名所、旧跡を訪れてみたいと思っています。愛媛県の方々も、機会がありましたら、どうぞ宮城県に来て下さい。

一生の思い出づくりを御支援していただき、心より感謝申し上げます。

愛媛県への修学旅行

宮城県石巻北高等学校飯野川校

三年 岡崎 朝美

私は父の経営する工場が全焼したので、とても修学旅行など考える事は出来ませんでした。また、周辺の空気も、人々の日々の生活も、その瞬間瞬間を生き抜くことが精一杯でとても「修学旅行」を考える余裕さえなかったように思えます。

そのように落ち込んでいた時、愛媛県からの「被災地学校修学旅行支援事業」の話が学校からありました。その話を聞いて、私達は素直に喜びました。クラス内にも活気がよみがえってきたように感じました。旅行日程、諸係り、グループ行動のパンフレット作成、目を輝かせて動いた記憶があります。

さらに交流会である愛媛県立長浜高校についても、どのような学校なのかを調べました。校舎内に水族館のあるとてもユニークな学校であることが分かりました。

修学旅行の中で、私の最大の思い出は、県立長浜高校との交流会でした。なぜなら、私は、その交流会の中で被災体験スピーチをすることになったのです。私は中学校は不登校だったので、ほとんど学校に行っていませんでした。その私がクラスを代表して四分間のスピーチをするなんて、とても自信がありませんでした。

父の水産加工場が全壊したこと、十数人の従業員が全員無事だったこと、最後まで責任者として工場に残りつづけた父のこと、自分の自宅が高台にあったので、周辺の人々の避難所になったこと、などを文章にまとめました。発表し終えた時、長浜高校の先生方、生徒さんから大きな拍手を頂きました。この体験がその後の学校生活で大きな支えとなりました。

そして、昨年、東北文化学園大学主催高校生スピーチコンテストに出場し、優秀賞を頂くことが出来ました。その内容は、3・11東日本大震災当日の様子、人々の絆の強さ、そして修学旅行で愛媛県立長浜高校で被災者体験スピーチをした事などを中心に発表しました。まさに、修学旅行の体験、経験が生きた瞬間でもありました。

私は修学旅行で初めて愛媛県に行きましたが、とても落ち着いたイメージを持っています。空港からバスで移動する際、窓越しに見る風景は、どこことなく私の住む石巻地方に似ているような気がして、とても親近感を持ちました。道中を案内して下さった担当の方々も、親切丁寧で好印象を持ちました。いつの日か愛媛県を訪問することができたらと思っています。

私達の大き過ぎる挫折感を希望と勇気に変えて頂いたこの度の御支援に厚く感謝すると共に、長浜高校、愛媛県の増々の御発展をお祈りいたします。



